



博物館ニュース「SHŪ」 NO. 66

“SHŪ” News of Tamagawa University Museum of Education

2026年3月20日

玉川大學教育博物館



目次

展覧会への招待……………2
 報告……………3
 資料をご寄贈いただきました……5
 開館カレンダー・利用案内
 ……………6

学校おさなきやうじゅの図

いせ喜（伊勢屋喜三郎）板
木版色刷 35.0×24.5cm 明治前期

明治前期の小学校の授業風景を題材とするこの錦絵は、学年ごとの教室ではなく、大きな広間でさまざまな授業がおこなわれる様子を描いています。画面からは、和装や洋装の教師と生徒の姿、そして当時使用されていた教科書、掛図、石盤、地球儀、筆、硯、半紙などの教材教具がみてとれます。

展覧会への招待

2026 年度企画展

学びのモノづくし-学校の教材教具・学用品の移り変わり-

教材とは教科書、掛図、指導書などの教育内容を具体化した学習の材料であり、教具は教材の理解を容易にするために用いられる器具・機器・図表・模型などをさします。いっぽう、学用品は児童・生徒が使用する鉛筆、消しゴム、ノート、定規、筆箱、クレヨン、画用紙などの用具です。

明治初期には、学制（1872年）にもとづき近代的学校制度が整えられ、教科書、掛図、石盤、石筆などが基本的な教具として導入されました。これらは一斉授業を前提とする教授法を支えるものでした。学用品としては、主に筆、墨、半紙、算盤などが用いられ、読み、書き、算術などの基礎教育をになっています。

大正期から昭和前期にかけては、教育内容の充実とともに教材教具の種類も拡大しました。理科では実験器具や標本、掛図、模型が整備され、地理・歴史では地図、地球儀、年表などの視覚教材が重視されるようになりました。図画工作では絵具、工作用具が導入され、体操教育では体操器具や運動用具が学校設備として位置づけられました。

戦後になると、民主化教育の理念のもと、教材教具は児童生徒の主体的学習を促す方向へと再編されました。そのため、視聴覚教育が重視され、映写機、スライド、レコード、後にはテレビやビデオが学校に導入されています。さらに高度経済成長期以降は、コピー機、OHP、理科実験の高度化、技術・家庭科の専用設備などが普及し、主体的学習や視聴覚教育へと役割を拡張していきました。

このように、学校教育における基盤である教材教具・学用品は、近代教育制度の成立とともに体系化され、時代ごとの教育理念や社会状況を反映しながら変遷してきました。本企画展では、明治期から昭和期までの小学校における教材教具・学用品を機能・形態別に分類し、それらが教育内容をいかに具体化し、いかに教授・学習を支えてきたかを紹介いたします。



第一単語図
文部省 木版色刷
明治7（1874）年



石盤・石筆・石板消し
スレート・木・ろう石・鉄・布
明治～大正期



幻灯機
真鍮・ブリキ・ガラス
明治期

◆会 期 2026年10月19日(月)～12月20日(日)

◆開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで) ◆入館料 無料

◆会 場 玉川大学教育博物館第2展示室 ◆主 催 玉川大学教育博物館

報 告

企画展の開催

■「藤澤武夫氏寄贈 20世紀美術コレクション」

2025（令和7）年度の企画展として、標記の展覧会を、10月13日（月）から12月21日（日）まで開催しました。



企画展 会場入口

藤澤武夫氏（1910-1988）は、本田技研工業株式会社を世界的な自動車・二輪車メーカーへと発展させた実業家です。当館所蔵のイタリアを中心とする112点の20世紀美術コレクションは、収蔵品の充実や展示・教育活動などに役立てて欲しいという藤澤氏のご芳志により、1984年にご寄贈いただいたものです。本企画展では、同コレクションのうち64点を9つのテーマに分けて展示し、20世紀美術の多様な展開のあり方とその魅力を紹介しました。



前期展示 第3章 人物の表現

前期展示（10月13日-11月9日）では、第1章「風景・自然」、第2章「静物の表現」、第3章「人物の表現」、第4章「物質性の表現」、第5章「色面・線による表現」、後期展示（11



後期展示 第1章 空間・光

月15日-12月21日）では、第1章「空間・光」、第2章「不定形の表現」、第3章「幾何学的・構成的表現」、第4章「未知なる世界」として展示を構成し、会期中に大幅な展示替えをおこないました。

会期中、学内外から1,424名の方々が来場され、20世紀美術の多彩な表現とその魅力を堪能されました。本展の開催にあたり、ご指導、ご協力を賜りました方々、ご来場いただいた皆さまに、改めて心より御礼申し上げます。

記念講演会

①「藤澤武夫と玉川学園」

②「20世紀美術のみかた

ーイタリアと世界の芸術家たちー」

11月29日、K-12 東山校舎講堂にて記念講演会を開催しました。当館客員教授の柿崎博孝氏は、コレクション受入れ当時の状況や当館に残る藤澤氏のオープンリール音声を紹介しながら、本学園と藤澤氏とのかかわりについて紹介されました。20世紀イタリア美



記念講演会① 柿崎博孝氏



記念講演会② 池野絢子氏

術を専門とする青山学院大学文学部准教授の池野絢子氏は、「人間の形」「抽象と物質」「抽象彫刻の展開」などの視点から、出品作品の鑑賞のポイントを解説され、藤澤武夫氏寄贈20世紀美術コレクションの価値とその魅力を強調されました。

ワークショップ

- ①「エンボッシング (エンボス加工) に挑戦」
- ②「コラージュに挑戦」

11月1日に当館客員教授の柿崎博孝氏によるエンボッシング、12月6日に本学芸術



エンボッシング 柿崎博孝氏



コラージュ 博多哲也氏

学部講師の博多哲也氏によるコラージュのワークショップを、K-12 東山校舎 B101 教室で開催しました。講師の指導のもと、展示作品にみられる技法を体験した参加者からは、20世紀美術のみかたが広がり、より身近に感じられたとの感想が寄せられました。

ギャラリートーク

11月4日と12月11日、本学芸術学部教授の村山にな氏を講師にむかえ、ギャラリートークを開催しました。参加者との活発な議論を展開しながら、出品作品の見どころなどを解説されました。



ギャラリートーク 村山にな氏

特別企画展

■「岡村康彦彫刻遺作展

—厳格な彫刻史の正当な系譜—

2026年1月19日(月)から2月1日(日)まで、2025年度特別企画展として、「岡村康彦彫刻遺作展」を岡村康彦遺作展実行委員会との共同主催で開催しました。

岡村康彦(1932-2020)は、東京藝術大学彫刻科を卒業し、玉川学園高等部、玉川大学文学部芸術学科の教員をつとめました。本展では、その足跡を「東京藝術大学彫刻科で学んだ時代前後」「玉川学園高等部・玉川大学での教員時代」「玉川大学退職後に自宅アトリエで制作・研究を続けた期間」の3つの時期に区分し、各期に制作された主要作品計約40点で展示を構成しました。

15日間という短い会期にもかかわらず、



岡村康彦彫刻遺作展

381名の来館者があり、多くの方々は静謐な空間にたたずむ作品群から、彫刻という表現を超えた「存在」との対話を体験されたことと思います。

玉川学園美術科との共同企画

現代の《心の窓》を描く

－三連祭壇画と『推し』の融合－

2026年3月2日（月）から9日（月）まで、玉川学園9年生が、同美術科教諭の梶原拓生氏の指導のもと、美術の授業の一環として制作した「三連祭壇画」22点の展示をおこないました。これは当館所蔵の「薔薇の聖母 3枚折イコン」の鑑賞をふまえ、各自が“推し”のテーマやモチーフを選択して、



三連祭壇画

3枚折のパネルに描いたものです。さまざまな“推し”を描いた三連祭壇画は、多くの来館者の目を楽しませました。

通信教育課程博物館実習

2026年2月10日から15日まで、本学教育学部教育学科通信教育課程の学芸員スクーリングを開講し、当館で博物館実習をおこないました。館の学芸担当教員と博物館・文化財関係の業務に携わる非常勤講師の先生方の指導のもと、計57名の受講者が4組に分かれ、6日間にわたりさまざまな内容の実習に取り組みました。



美術資料（掛軸）の取り扱い

統計（2025年4月～9月）

開館日数 111日 入館者数 1,118名
収集

〔資料〕	教育史	6件
	学園史	4件
〔図書〕	和書 160冊	洋書 0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	28冊
	洋雑誌	7冊

資料をご寄贈いただきました（敬称略 2025年9月～2026年2月）

前田 均	教育資料	168点	高倉 薫	教育資料	2点
大浦 玲嗣	教育資料	164点	高原 芳明	学園史資料	140点
佐藤正二郎	教育資料	1点	高原 芳明	音楽史資料	332点
福井 一光	学園史資料	1点	ありがとうございました		

2026年度上半期 開館カレンダー

2026年4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

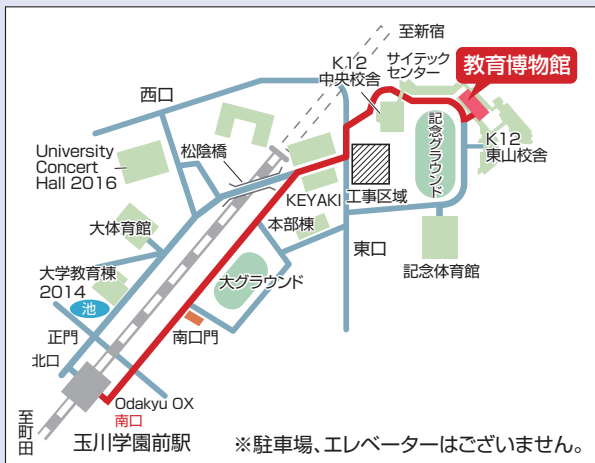
9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

休館日

第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開

※ 上記の予定は、大学の授業・行事日程、社会情勢等により変更することがあります。
 詳細は当館ホームページをご覧ください、電話等にてお問い合わせください。



交通アクセス

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩約 15 分
 ※駅南口から線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。ご来館の際は、校門の案内所にて入校手続きをお願いします。
 ※来館者用駐車場はありません。お車での来館はご遠慮ください。

利用案内

開館時間 午前 9 時～午後 5 時
 (入館は午後 4 時 30 分まで)
 休館日 日曜・土曜・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間等
 (詳細は当館ホームページをご覧ください)
 入館料 無料

博物館ニュース SHŪ No.66

2026 年 3 月 20 日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒 194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

www.tamagawa.jp/campus/institutions/museum/

『SHŪ』は、漢字で『集』とあらわします。
 博物館に「集」められたさまざまなものをめぐり、多くの人々の「集いの場」になるようにと願って名づけました。